

第2回 学校運営協議会 議事録

日 時 令和7年10月29日(水)15:00～16:30

場 所 岡山県立瀬戸高等学校 多目的教室

出席者 委員9名のうち6名が出席

1. 開会・会長挨拶

気候も良くなり、学校が大変な時期かと思うが、生徒・教職員一丸となって良い結果を出し、瀬戸高校がより広く知られるようになることを期待している。

2. 出席者紹介

3. 協議

(1)学校の現状と取組に関する説明

校長より 第1回学校運営協議会(5月13日)以降の主な取り組みについて報告があった。

- 5月17日 PTA 総会(保護者向け生成 AI 体験会): 多数の保護者が参加し、AI 共創型教育の一端を披露した。
- 5月30日 データサイエンスセミナー(2年次対象): 外部講師を招き、オープンデータを活用した実践的なセミナーを初めて実施した。
- 7月16日 探究学習発表会(真夏のセト☆フェス): 保護者、教育関係者など多数が参加した。
- 7月29日 メタバース授業公開(1年次)、ハッカソン授業公開(2年次)、セト AI カフェ: ICT を活用した授業やキャリア支援の実践を共有した。
- 8月21日・22日 オープンスクール: 約450名が参加。初めてDX体験会も実施し、中学生約200名が参加した。
- 9月5日・6日・10日 瀬戸高祭: 暑さ対策として、文化の部(初日)は瀬戸公民館、体育の部は山陽ふれあい公園体育館で初めて実施した。特に体育の部では空調の効いた環境で熱中症の心配なく実施でき、PTA の協力もあり盛況であった。
- 部活動: 今夏のインターハイ中国地区開催では、本校生徒がバレーボール会場の運営で活躍。書道部や吹奏楽部は地域のイベントに多数参加し、地域連携を深めている。
- DX ハイスクールの取り組み: 全国から注目を集め、教育委員会や他県の学校からの視察が多数あった。BS テレビ東京でも全国放送された。
- ホームページリニューアル: 11月1日に約10年ぶりに全面リニューアルを予定。同窓会の支援に感謝の意が示された。

教務課より

- 授業改善:「数理・データサイエンス・AI を活用した探究的学び」「生成 AI を活用した授業」を二本柱とし、6月と10-11月に授業公開・参観期間を設けて実践。教

員の端末活用指導力は、昨年度と比較して「ほとんどしない」層が減少し、全体の活用レベルが向上している。

● オープンスクール・学校説明会:

- 参加者数は昨年度より若干減少したが、生徒会による学校紹介や探究発表、高校生との交流会など生徒主体の内容で、アンケートでは高い評価を得た。
- 学校説明会では、PTA 会長の協力を得て保護者座談会を新たに実施し、好評であった。
- 受験校決定の基準として「学校の雰囲気」が最も多く挙げられた。

生徒課より

- 瀬戸高祭: 会場変更に伴う安全対策を講じ、事故なく実施できた。生徒アンケートでは、文化の部は満足度 97.4%、体育の部は 85.5%であった。体育の部の満足度が前年度より低下した要因として、会場の狭さや音響などのハード面が挙げられた。移動手段は来年度の検討課題。
- 生活指導: 行事の準備期間中に服装違反などが増える課題が残った。
- 交通安全: 委員会による朝の呼びかけや、保護者説明会でのヘルメット着用推奨など、交通ルール遵守の指導を強化している。11 月には交通安全 LHR を予定。

進路指導課より

- 学習実態調査: 全学年で家庭学習時間が増加傾向にある。「意味のある学習の量が質に変わる」を合言葉に、予習・復習のサイクルの定着を促している。
 - 1 年次: 119.6 分 → 137.7 分
 - 2 年次: 89 分(昨年同年次時) → 115 分
 - 3 年次: 115 分(前回調査) → 179.7 分
- 進路実績: DX や探究活動の取り組みと進路実績の結びつけが課題。R6.3 月卒業生は国公立大学合格者数が 41 名(前年 28 名)と大きく増加。特に総合型・推薦型選抜での合格者が倍増したが、一般選抜での合格者数も維持しており、多様な生徒に対してきめ細やかな指導ができています。

厚生課より

- 救急法講習会: 日本赤十字社の講習から、地域連携を目的として赤磐市医師会病院の救命講習会に変更した。
- 健康 LHR: ネット・ゲーム依存をテーマに専門家による講演会を実施。「黒ネット」「白ネット」といった分類が印象に残ったという感想が多く、生徒が自身のネット利用を考える契機となった。
- 避難訓練: 実施時期を 1 学期に前倒し、地震体験車や消防署職員による講話を取り入れるなど、より実践的な内容で実施。避難場所の理解度(約 70%)、避難経路の把握度(54%)など課題も見られたが、生徒の防災意識は高まった。

教頭より 学校経営目標・計画の中間評価について、4 つの柱に沿って報告があった。

- ①尚学(授業改善・学力向上): 6 項目中 A 評価は 1 項目。教育 DX の取り組みは特に評価が高く、新規赴任教員へのガイダンス受講率は 100%を達成。体育や芸術などの実技教科でも生成 AI 活用が進んでいる。
- ②自主(生徒主体の活動): 9 項目中 A 評価は 4 項目。瀬戸高祭の会場変更という大きな変化に対応し、生徒が主体的に取り組んだことが高く評価された。

- ③健康(人間関係・生活習慣): 8 項目中 A 評価は 4 項目。韓国の青少年交流事業の受け入れなど、新たな国際交流の機会も生まれた。いじめについては、早期発見・迅速な組織的対応に努めており、重大事案は発生していない。
- ④協調(地域連携・探究活動): 5 項目中 A 評価は 0 項目だが、各項目で目標達成に向けて順調に進んでいる。ホームページのアクセス数は増加傾向にあり、探究活動では外部コンテストで「NIKKEI STEAM 審査員特別賞」を受賞するなどの成果が出ている。

生徒発表 第 1 回学校運営協議会での「生徒の成果物が見たい」との意見を受け、2 グループの生徒による発表が行われた。

- AI リーダーズ:
 - AI 技術を実践的に習得し、社会課題の解決に挑戦するプロジェクト型学習コミュニティとして活動。
 - 大学教授からの指導、大阪の企業視察や起業家インタビュー、コンテスト「シンギュラリティバトルクエスト 2025」への出場(地区予選突破)など、活発な活動を紹介。
 - 中学生や地域住民を対象に、生成 AI の適切な使い方を学ぶ DX 体験会を開催していることも報告された。
- 日経 STEAM 審査員特別賞 受賞グループ:
 - 総合的な探究の時間における活動の成果として、大阪で開催されたコンテスト「NIKKEI STEAM 2025」において「審査員特別賞」を受賞した探究内容について発表を行った。

(2) 質疑応答

協議内容に関する質疑はなく、報告された学校の現状と取組について承認された。

4. 意見交換

委員から以下の意見・感想・質問が出された。

- (委員1) 生徒や学校から同窓会に対し、資金、人材、情報提供など求めることがあれば積極的に意見を出してほしい。また、生徒の読書離れについて懸念しており、学校としてどのように捉え、対応しているか伺いたい。
 - (学校側回答) 正確な貸出数のデータは把握していないが、読書する生徒はいる。図書委員会などで本の紹介などの取り組みを行っている。
- (委員2) DX ハイスクールとして、学校の魅力をさらに発信してほしい。学校説明会で初めて行われた保護者座談会は、保護者目線で経験談を話せる貴重な機会であり、不安解消に繋がる良い取り組みだと感じた。
- (委員3) 探究活動の成果が推薦入試の合格者増に繋がっているのは素晴らしい。DX を絡めて瀬戸高校のブランドイメージを確立して欲しい。赤磐市が開催するシンポジウムに瀬戸高校の生徒がパネリストとして登壇することを周知。また、書道などの実技教科で AI をどのように活用しているのか質問があった。
 - (学校側回答) 書道では、伝統的な技法の再現方法を調べたり、制作のアイデア(例:紙粘土やチョコレートで試作する)を生成 AI から得たりする活用事例があった。
- (委員4) 生徒の発表が楽しそうで非常に良かった。個別最適な学びに向けた AI 活用や、生徒の満足度を重視した学校行事の運営など、学校の姿勢を高く評価す

る。学習の質が変化する中でも進路実績を出しているのは素晴らしい。一方で、コミュニケーション能力や読書による論理的思考力といった、時代が変わっても大切な普遍的な能力の育成も引き続き重視してほしい。大学生の文章力低下が全国的な問題となっている点を指摘。

- （委員5）自身の大学での課題解決型学習（PBL）や、中学校での生成 AI 活用実践例を紹介。生徒の疑問や感想を NotebookLM で分析・分類し、生徒の「読み」の質を可視化する試みについて語った。AI の活用は、業務効率化だけでなく、教員が「本当に教えたいことが伝わっているか」「生徒の学びがどう豊かになっているか」を把握するためのツールとなり得る。教育の質を上げるための AI 活用の可能性について、さらなる研究に期待を寄せた。

5. 事務連絡

- 第 3 回学校運営協議会を令和 8 年 2 月に開催予定。
- 閉会后、希望者を対象に DX ラボの見学・紹介を行う。